

会長コメント

深刻化する国際社会の分断の中で開催された今回のNPT再検討会議において、NPT第6条に基づく核軍縮の具体的な取組について合意ができないなど、各国の意見の相違が解消されず、最終文書採択しないまま閉会したことは、極めて残念です。

ヴィエツト議長の高いリーダーシップの下、NPT体制を維持・強化するための活発な議論が行われたにもかかわらず、3回連続して核軍縮・核不拡散の取組を着実に前進させていくという国際社会の結束した意思を示すことができませんでした。核軍拡競争の激化、武力紛争の拡大が懸念されると共に、核兵器廃絶を訴え続けてきた被爆者の切実な願いを置き去りにする結果となったことは、人間社会が過去の歴史から得た教訓を蔑ろにしていることの表れであると受け止めています。

本年11月には、NPTを補完する核兵器禁止条約の第1回再検討会議の開催を控えている中、こうした危機的な状況が生じたことで、平和を希求する市民の声は益々高まっており、平和首長会議としては、世界の166か国・地域の8,600の都市の力を結集し、核兵器廃絶に向けた為政者の政策転換を促す環境や、人類の共存に向けて連帯する市民社会をつくるため、「平和文化」を日常に根付かせていきたいと考えています。また、若い世代の国境を越えた交流と、被爆体験の次世代への継承を一層強化することにより、核兵器のない世界の実現に向けた歩みを着実に進めてまいります。

令和8年（2026年）6月1日

平和首長会議会長

広島市長 **松井 一實**